



▶ 中畑 淳 教授

被災地で聴いて奏でる音楽体験 人間発達文化学類 芸術・表現コース

福島大学人間発達文化学類芸術・表現コース(音楽科)の中畑淳教授と学生有志は、被災地域の中学校や放課後子ども教室で音楽コンサートを行っています。生の演奏を聴きたいという地域の要望を受けたことをきっかけに始まり、2022年度から現在までに、楢葉町と双葉町、川内村で計6回開催しています。

当初は音楽科教授らの主導で進んでいた演奏会ですが、大学生が企画立案に積極的に参加するようになり、現在では主体的にプログラムを構成してくれています。子どもたちにとってポピュラーな楽曲の演奏、世界の珍しい楽器の演奏体験など、聴く側も演奏者も「会場の人みんなで楽しむ」参加型コンサートへと内容が変化してきました。

出演した学生からは「参加できてよかった。今後も積極的に関わりたい」という好意的な声が上がっており、子どもたち・学生双方のアクティブラーニング(文部科学省提唱の主体的・対話的な深い学び)としても非常に良い形になってきました。中畑教授は「今後は音楽科だけでなく、美術科をはじめ異なる科の学生の協力も得ながら内容のさらなる充実を図り、次年度以降もコンサート事業を継続したい」と話しています。



▶ 今年8月に川内村で行われたコンサートでフルートの音色を聴近で感じる児童ら

相双地域支援サテライトの活動

地域復興支援



▲ 交流会には北幾世橋地区住民15人が集った
▶ モルックを楽しむ参加者

新スポーツ「モルック」で交流 浪江町北幾世橋地区

相双地域支援サテライトは8月31日、浪江町北幾世橋地区の初発神社で「お茶っこ交流会」を開催しました。住民15人が参加し、ゲーム形式の自己紹介やニュースポーツなどを通して親睦を深めました。

会場となった初発神社の社務所は昨冬に改修工事が終了し、今回は地域住民が集まる初めての機会となりました。交流会はまず、田村友正宮司が神社の由緒や地域に伝わる幾世橋神楽について解説、住民からは「懐かしい」という声が上がりました。

後半は浜通りでも知名度が上がっているニュースポーツで、短い棒を投げてピンを倒す「モルック」を全員で楽しみました。浪江町で新たに立ち上がったモルックサークルの人たちに室内でも楽しめる段ボール素材のモルックを準備してもらいました。ほとんどの人が初めてのプレイでしたが、スーパーショットが連発し、日熟した試合展開になりました。これを機に町内で定期的に行われているモルック練習会にも参加してみたいという人もいて、すっかりその魅力に取りつかれた様子でした。

本サテライトは今後も住民の皆様との交流を重ねながら、地域コミュニティづくりに貢献していきます。



▲ 大人気だった小川での水遊び
▶ いわなの郷で水遊びに興じる親子ら

夏、親子で川内の自然と遊ぶ いわなの郷で「冒険ひろば」

川内村の観光施設「いわなの郷」で7月13日、幼児や児童らが福島県の豊かな自然に親しんで遊ぶ「子どもの冒険ひろば」が開催され、双葉郡や南相馬市、いわき市から約30人の親子が参加しました。虫取りや水遊び、ボール遊びなど、それぞれが自由に好きな遊びをしながら楽しく過ごしました。

福島県内の自然体験8団体でつくる「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」の主催。このイベントは県内各地で年間100日以上開催されており、双葉郡内では「いわき・双葉の子育て応援コミュニティcotohana(コトハナ)」が協力し、今年度は相双地域支援サテライトも運営に携わっています。

当日は敷地内を流れる小川での水遊びが大人気で、子どもたちは水鉄砲で遊んだり、水鉄砲で遊んだりしていました。いわき市から来場した家族は「昨年も参加し、とても楽しかったので今年も来た。自然の中で思いっきり遊べる貴重な場です」と感想を述べました。

今年度の双葉郡内での冒険ひろばはあと1回、10月14日(月・祝)に浪江町丈六公園での開催を予定しています。

お知らせ 11月、「楽ワザ介護セミナーin楢葉町」を開催します

相双地域支援サテライトは昨年度に引き続き、「楽ワザ介護セミナーin楢葉町 福祉とまちづくり～ともに生きる地域をつくる～」を楢葉町で開催します。後日、ホームページなどで詳細をお伝えしますので、ぜひご参加ください。

■日時 2024年11月18日(月)午後1時
■会場 みんなの交流館ならはCANvas
(双葉郡楢葉町大字北田字中満260)
■講師 ケア・プロデュースRX代表 青山幸広氏



▶ 昨年11月に楢葉町で開かれた「楽ワザ介護セミナー」



「相双の風」は、被災地域の今と、福島大学地域未来デザインセンター相双地域支援サテライトの取り組みを紹介するニュースレターです。相双地域支援サテライトは被災地と福島大学をつなぐ拠点を、被災地域復興に向けた支援活動を行っています。



TOPICS トピックス

草野心平しのび朗読や神楽 川内村で「天山祭り」

心平をしのび、天山文庫の前で輪になって踊る人々

カエルの詩人として知られる草野心平(1903～88年)の蔵書を収める川内村の天山文庫で7月13日、村で多くの日々を過ごした心平をしのぶ第59回「天山祭り」が開かれ、村民や各地のファンら140人が訪れました。

心平が1953(昭和28)年に同村でモリアオガエルのすむ平伏沼を訪れたのが親交のきっかけ。祭りは同文庫が落成した66(同41)年、名誉村民の心平を囲んで酒を酌み交わしながら歌や踊りに興じたのが始まりで、心平の没後も毎年休みなく続けられてきました。

当日は緑深い林間に立つ同文庫の前庭で、心平の遺影を前に村立川内小中学園の6、7年生9人が1人ずつ日頃の思いを託した自作の詩を披露。心平や中原中也らが創刊した雑誌「歷程」の同人たちもカエルの死を悼んだ心平の作品「るるる葬送」を朗読しました。また、巫女装束に身を包んだ女子児童4人が村の神社に伝わる神楽「浦安の舞」を踊りました。

本学の協働プロジェクト学修⑨「大熊町と川内村での歴史と災害の記憶の継承」では、心平と村民の交流について証言集を作成する計画で、祭り当日は受講している大学生たちが運営ボランティアに動きました。

